

グローバルシティにおける 都市機能としてのコミュニティとメディア

平成 28 年度市民研究員 サーズ恵美子

1. 序論

(1) 研究の背景

福岡の“今”を外国語で発信することをライフワークとするカナダ人と結婚したことで、福岡で生まれ、極めてドメスティックな環境で育った私のライフスタイルは一変した。家族は元より、友人知人、知り得る情報も多様化し、今もグローバル化の真っ只中にある。

そして、私自身も外国人のために福岡・九州のつかえる情報をタイムリーに届けることが日々のミッションとなり、日常的に、福岡・九州・日本について、地理的・文化的・経済的に説明する機会が増えた。事実や客観的な情報、時には、当該地域のネイティブとしての見解を求められ、間で感じる「共感」や「違和感」、そして、情報の受け手の反応や理解を通して福岡の立ち位置を再認識する機会が増えた。

世界的にも周知のようにグローバル化は急速に進んでおり、福岡の街ですら、2009 年頃から博多港に寄港するようになった大型クルーズ船の影響も加わり、旅行者を含む多くの外国人を目にするようになった。2013 年に東京でのオリンピック開催が決定すると、「観光」が国の成長戦略の大きな柱とされ、さらには 2014 年には東京一極集中を是正すべく「地方創生」政策が掲げられたことで、福岡のグローバル化推進に対する意識は加速し、「まちづくり」が行政や都市デザインといった専門家だけのものではなくなった。

福岡市は、2014 年 5 月に国家戦略特区「グローバル創業・雇用創業特区」に選ばれ、市民が能動的に活躍できる社会へとシフトチェンジを試み、グローバル化への機運は高まる一方である。2017 年 2 月には外国人創業活動促進事業（スタートアップビザ）もはじまり、国内外からの注目度と期待度は高い。情報発信についても様々なアプローチ方法で行われており、街の方向性を把握するための市政などに関するオフィシャル情報は、web サイトを通じた自動翻訳へと切り替えが進んでいる。

しかしながら、グローバル化時代の肝である情報社会においては、オープンアクセスが主流であり、世界にインパクトを与えたいと考えるのであれば、国際言語である英語での情報発信は必須であることに鑑みると、施策の目的がどこにあるのかを問わざるを得ない。自動翻訳は、求める情報にたどり着いた際に使用する機能であり、多言語での発信を直接的に実現する機能ではない。このような掲げられた戦略と実際に行われている施策との大きなギャップは、世界的に都市間競争が高まる時代においては、都市成長の足かせとなる可能性が高く、当事者における事実認識が早急に必要である。

そこで、さらなるグローバル化時代へ向けてまちづくりを考える際には、新規の取り組みと同時に現状を適切に把握し、改めて疑問を投げかけることも必要ではないか。そして、人が主役であり、すでに実績あるそれらがもつ可能性と影響力を再び引き出して、都市の魅力として捉え機能整備を行ってはどうか、と考えるようになった。生活の基盤を支えるインフラとは別のものとして捉えられていたコミュニティとメディアは、これからの時代、人々をつなぐ重要なインフラである。それらを都市機能と位置づけ、より豊かな都市生活の実現を図る際には、人と人、人とコミュニティ、そして都市とを繋ぐ創造的で多様な人々の存在が重視されるようになるであろう。地域に魅力を感じ、主体的に活動して経験を重ねた、いわゆる「中核層」と呼ばれる人々が活躍できる場が整備されている都市こそ、市の戦略にある創造的な人材を呼び寄せる革新的な都市ではなかろうか。この日々感じる肌感覚を実証すべく、本題を研究タイトルとして選び、市民研究員としての機会を得た。

なお、「中核層」という概念を最初に唱えたのは、牛尾治朗氏（当時、総合研究開発機構会長）である。氏は、『『上でも下でもない』という消極的な自己認識によって形成されてきた…（中間層ではなく）、今後求められるのは、より積極的な意味での中間層だ。われわれはこれを「中核層」と呼びたい。一定の経済的基盤の上に、様々な社会活動に参加して社会の中核を担い、政治的にも責任ある判断を下す人々のことである。』と定義している。（『中核層』軸に信頼社会を築け」NIRA オピニオンペーパーNo.10/2013.6）

(2) 研究の手法と目的

- ①これからの世界標準のグローバルシティの基準を明らかにすること
- ②福岡市の現状把握（目指す都市像と外国籍市民へのサービス）
- ③グローバル化する都市において求められる都市機能を明らかにすること

以上の手法で現状を検証することを通じて、いかにグローバルシティとしての福岡の魅力を高めるか、そして、その方法として「都市におけるコミュニティとメディアの在り方」への提言・示唆を行う。

(3) 研究の視点

地域内外からの住みやすい街としての評価が高く、福岡市民による「平成 28 年度市政に関する意識調査」では、「住みやすい：95.8%」「住み続けたい：92.4%」と、住みやすさに関する回答が過去最高の高得点を記録。また、グローバル情報誌モノクル（本社ロンドン・2007 年創刊）で毎年発表される「世界でもっとも住みやすい 25 の都市ランキング」においては上位ランクインの常連都市となり、情報感度の高い国際人らに福岡の名が知られるようになった。

ここではすでに公表されているデータ結果だけにとどまらず、福岡に存在する外国人コミュニティにおける調査を行うことにより、福岡在住の外国人の実態についても考察する。

表1 世界でもっとも住みやすい25における福岡市のランキング

2008年	17位
2009年	16位
2010年	14位
2011年	16位
2012年	12位
2013年	12位
2014年	10位
2015年	12位
2016年	7位
出典：Monocle ホームページ https://monocle.com/film/affairs/top-25-cities-2016/ (2017/03/15)	

(4) 研究の方法

① 外国籍市民調査

福岡市外国籍市民の生活環境への評価などを洗いだすとともに、福岡市における現行の在住外国人施策の効果検証と、今後の戦略的な施策展開に活用するための基礎情報を得ることを目的としている「福岡市外国籍市民アンケート報告書（対象：在住5年未満の20歳以上）」と、Fukuoka Nowによる「外国人の住まいに関するアンケート調査」の比較分析を行った。

② 福岡市総務企画局国際部へのヒアリング調査

現行の在住外国人施策について（情報提供あり）ヒアリングを行った。

(5) 研究の構成

- ① 序論
- ② 福岡市が目指す都市像の共有
- ③ 世界におけるグローバル都市とは
- ④ 福岡市の現状（アンケート調査、現行施策）
- ⑤ メディアとコミュニティの現状と可能性
- ⑥ 提言

2. 福岡市が目指す都市像

まずは、福岡市が目指す都市像を共有しておきたい。これは福岡市基本構想・第9次基

本計画にまとめられたもので、まちづくりに携わる産学官民の多くの主体が共有する。1987年以來 25 年ぶりに策定され、2013 年から 2022 年までの 10 年間が対象期間である。

「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」

- ・自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市
- ・自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市
- ・海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市
- ・活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市

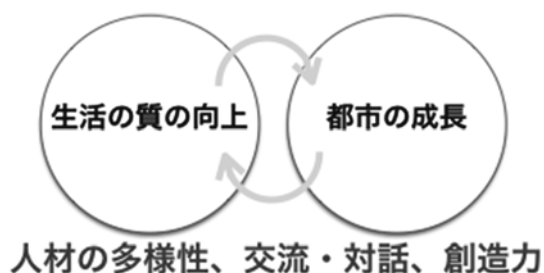
ここでは『人』が主体となり、様々な人々の交流によって活性化することが期待されているといえる。インターネットやLCCが台頭し、国境を越えて情報や人が容易に行き来するようになったグローバル化時代においては当然の流れである。

地域発展モデルとして、創造性をもった人材（クリエイティブ・クラス）に着目し、その実証的研究と体系化をおこなっている、都市社会学者・リチャード・フロリダ（多文化共生都市カナダ・トロント大学教授）によると、「創造力ある人間が集まる都市こそが経済成長の源」であり、「クリエイティブな動機こそ、人々の集積化を求め、都市を成長させる原動力」なのだ。才能ある人々は自己実現の手段として才能を発揮しやすい場所に住みたがり、その結果、都市に住むことが必要となり、才能は都市の中で買われ、都市はさらに稼ぎの良い場所になる⁽¹⁾としている。住みやすさについての評価が高い福岡にとっては、「住みやすさが重大な要素であること」を、さらに追求すべきであろう。

ちなみに、先述のリチャード・フロリダは「ボヘミアン＝ゲイ指数」というユニークな考え方を発表して注目を浴びた都市社会学者でもある。「ボヘミアンやゲイ人口の多い地域は文化的開放性が高く、寛容性がある＝人種や民族の垣根を越えて様々な才能や人的資本を引きつける。」とし、同時にボヘミアンやゲイを快適な生活環境に対する厳しい目を備えた消費者として捉え、そのような条件が整っている場所に集中する傾向にあり、開放的な精神や自己表現に価値を置くコミュニティにも参画する傾向がある。」としている。

さまざまな違いを尊重して受け入れ、「違い」を積極的に活かす「多様化」は、一般的には、コミュニケーションを円滑にし、新たな価値を創造する可能性を高め、都市の成長を促すといわれている。そのため、多様化の促進は、変化しつづける環境や多様化する社会ニーズにも効果的に対応し、都市の優位性を創り上げるであろう。

図1 福岡市が目指す都市像



出典：福岡市基本構想・第9次基本計画

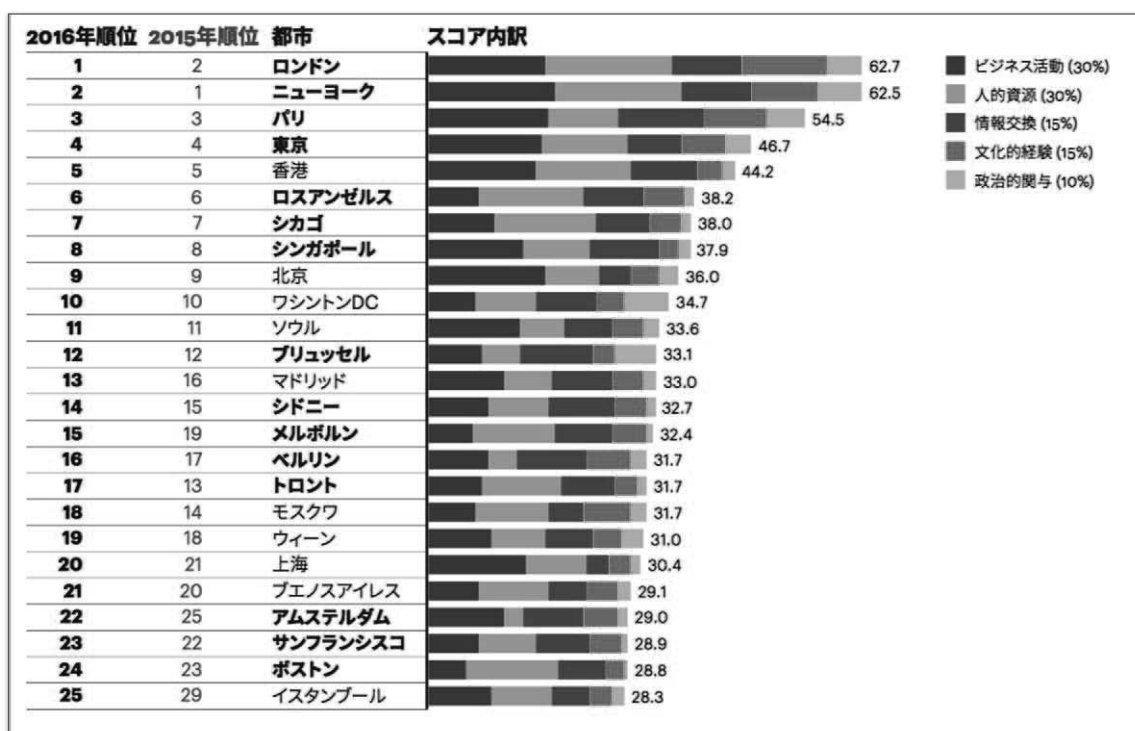
福岡において、クリエイティブ・クラスとボヘミアンやゲイ人口とを結びつけるにはまだ課題が多いように思うが、寛容性や文化的開放性の指標として捉え、加えて、多様化を促進することが都市の繁栄を導く、という考え方は、念頭に置いておくべきであろう。つまり、自分とは異なる多様な人々をどこまで寛容できるのか、が鍵なのである。

3. 世界におけるグローバル都市の定義

それではいったいどのような都市が、私たちが目指す都市に近いのか、を探してみたい。

(1) グローバル都市指標調査(出典:A. T. カーニー グローバル都市調査 2016)

図2 A. T. カーニーによるグローバル都市指標



出典：A. T. カーニー グローバル都市調査 2016

これは、世界 40 カ国以上に拠点をもつグローバルな経営コンサルティングファーム、A. T. カーニー（1926 年創業）が 2008 年より毎年行っているグローバル都市指標調査の 2016 年版だ。世界の都市のグローバル度を、全 125 都市から経済活動、人的資源、情報流通、文化的経験、政治的関与の 5 つの視点から評価した「グローバル都市指標」に加え、都市の将来的な競争力を決定する都市レベルの政策や慣行を、より進歩的な観点から見つめ、長期的な成功につながる要素を評価する「グローバル都市展望」を昨年から発表している。

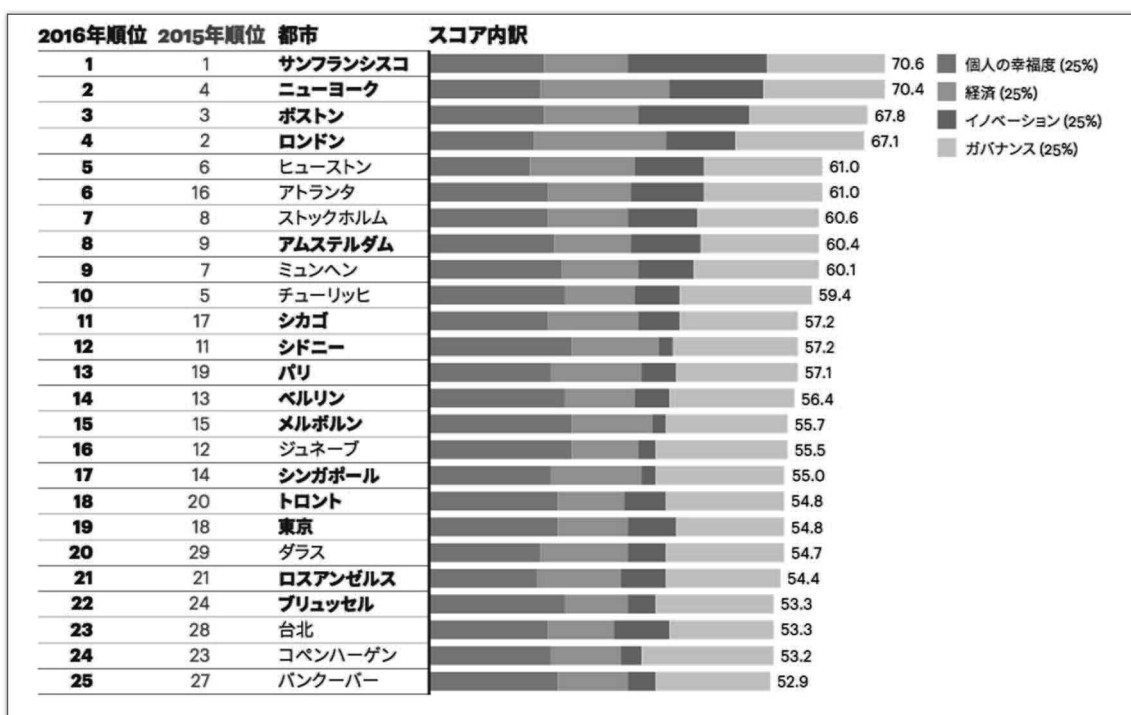
福岡は評価対象 125 都市に入っていないため、ここでは世界的にどの都市が影響力があ

るとされ、今後影響力をもつとみられているか、を把握しておきたい。(図表中太文字の都市名は、グローバル指標にもグローバル展望にもランクインした都市を示す) グローバル都市展望の1位は2年連続でサンフランシスコ。強いイノベーションが評価された結果だ。

この評価ポイントは以下のとおり。

- ・個人の幸福度：安全、医療、不平等、環境対策
- ・経済：長期的な投資と GDP
- ・イノベーション（革新性）：民間投資
- ・ガバナンス（意思決定と行動）：
透明性を通じた長期的安定性、官僚制度の質→ビジネスのし易さ

図3 A.T. カーニーによるグローバル都市展望



出典：A.T. カーニー グローバル都市調査 2016

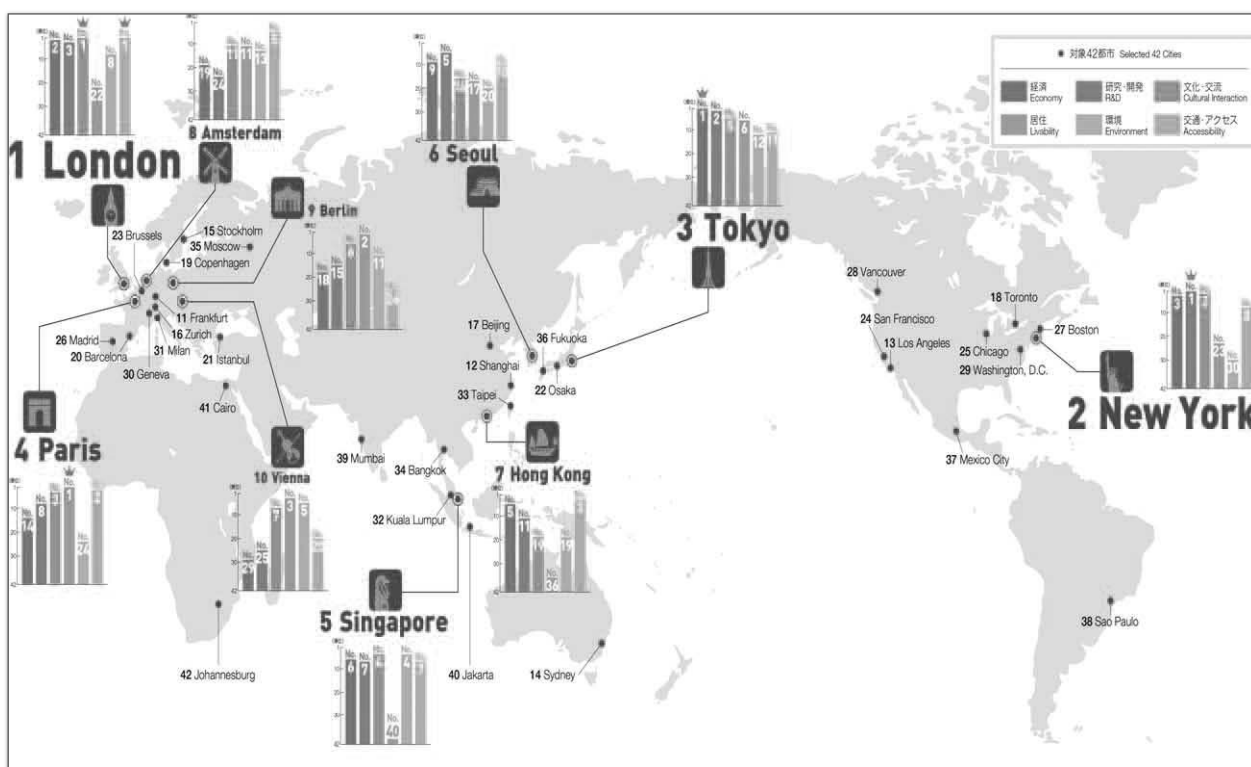
「グローバル都市展望」にいたっては、2015年の調査開始から、最新の2016年を比較すると、「個人の幸福度」の分野が著しい進歩を見せている、とのレポートが同社から出ており、「気候変動に対応するためのインフラ設備への投資や、安全性、医療サービスなど、市民の生活の質を改善するために各都市が進めている取り組みの成果が現れている。」としている。

ちなみに、イノベーションが活発で、今後最も強い影響力をもつ都市として予測されているサンフランシスコは、世界最大のゲイコミュニティがある街としても知られている。

(2) 世界の都市総合力ランキング（出典：一般財団法人森記念財団都市戦略研究所）

次は、一般財団法人森記念財団都市戦略研究所による「世界の都市総合力ランキング」を見てみよう。世界を代表する主要 42 都市を選定し、都市の力を表す 6 分野（経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセス）における 70 の指標に基づいて評価されたものだ。

図 4 （一財）森記念財団による世界の都市総合力ランキング



出典：一般財団法人森記念財団都市戦略研究所

WWW.MORI-M-FOUNDATION.OR.JP/PDF/16_JP.PDF

我々が福岡は 42 都市中 36 位。

経済 32 位/研究 27 位/文化交流 42 位/居住 9 位/環境 17 位/交通アクセス 36 位

ここでも居住に関してはスコアを伸ばしているが、交流や文化発信力、文化資源、外国人受け入れ実績や集客施設から評価される「文化・交流」分野では最下位だ。

図 5 「分野別ランキング作成の指標」にある受入環境など、すでに福岡市が課題として認識している項目も多く、早急に対策をとることを検討すべきである。

(3) 世界におけるグローバル都市

世界でグローバル都市として高く評価される都市は、経済活動の活発さや情報・文化度の高さだけでなく、個人の幸福度も含めた多角的な取り組みの結果といえる。

図5 分野別ランキング作成指標

交流・文化発信力	22	国際コンベンション開催件数
	23	主要な世界的文化イベント開催件数
	24	コンテンツ輸出額
文化資源	25	アーティストの創作環境
	26	ユネスコ世界遺産(100km圏)
	27	文化・歴史・伝統への接触機会
集客施設	28	劇場・コンサートホール数
	29	美術館・博物館数
	30	スタジアム数
受入環境	31	ハイクラスホテル客室数
	32	ホテル総数
	33	買物の魅力
外国人受入実績	34	食事の魅力
	35	外国人居住者数
	36	海外からの訪問者数
	37	留学生数

出典：一般財団法人森記念財団都市戦略研究所

4. 福岡市の現状（アンケート調査、現行施策、メディア）

ともあれ。立地条件がよく、住みやすい街として評価されている福岡には、多くの人々が集まってきているのも事実だ。

(1) 人口増減数・増減率（政令指定都市比較）

これは5年越しに行われる国勢調査で発表された数値だが、福岡は一位。

表2 人口増減数・増減率（政令指定都市比較）

都市名	2015年10月	2010年10月	増減数/順位		増減率/順位	
さいたま市	1,264,253	1,222,434	41,819	3	3.4	4
横浜市	3,726,167	3,688,773	37,394	5	1.0	10
川崎市	1,475,300	1,425,512	49,788	2	3.5	2
札幌市	1,953,784	1,913,545	40,239	4	2.1	5
福岡市	1,538,510	1,463,743	74,767	1	5.1	1

出典：福岡市作成、資料「国勢調査」

(2) 在留外国人の増減数・増減率（政令指定都市比較）

次は、先述の人口政令指定都市比較を在留外国人に的を絞ると、在留外国人数では大阪、横浜、川崎を下回るものの、増減数で見ると横浜に次いで6,113名とここ5年間で増えており、増減率で見れば25%増。

表3 在留外国人の増減数・増減率（政令指定都市比較）

都市名	2015年12月 在留外国人数	2010年12月 在留外国人数	増減数/順位		増減率/順位	
さいたま市	19,829	17,710	2,119	5	12.0	3
横浜市	84,257	77,373	6,884	1	8.9	5
川崎市	34,004	31,258	2,746	3	8.8	6
大阪市	122,147	119,847	2,300	4	1.9	14
福岡市	30,312	24,199	6,113	2	25.3	1

出典：福岡市作成、資料「在留外国人統計」

(3) 福岡市の人口（2017.1月末日現在 / 住民基本台帳の人口）

現在は増加傾向にある福岡市の人口と性別等による内訳。外国人が増えているとはいえ、全体人口の2%程度に過ぎない。

表4 在留外国人の増減数・増減率（政令指定都市比較）

年齢	総数	男	女
総数	1,515,330	719,263	796,067
日本人	1,483,057	702,111	780,946
外国人	32,273	17,152	15,121

出典：福岡市、資料「住民基本台帳」

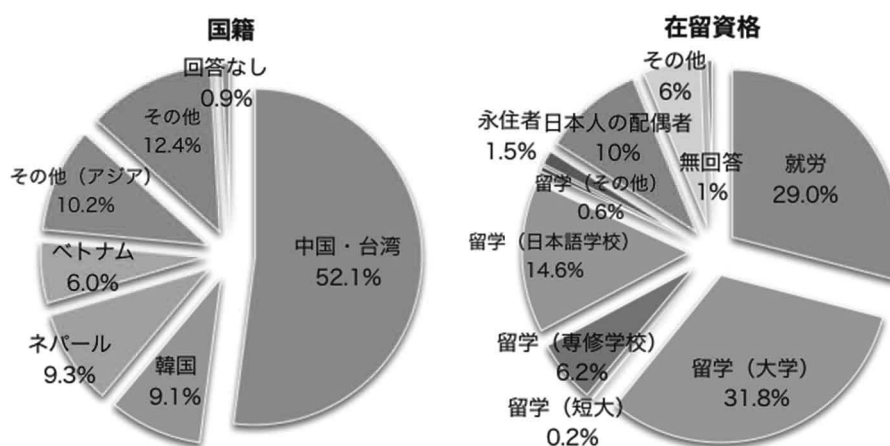
(4) 福岡市外国籍市民アンケート

福岡市は外国籍市民に関する基礎資料（生活環境への評価、日常生活の実態、教育・子育てについての悩みなど）を得ることを目的に「福岡市外国籍市民アンケート」を実施している。例年、調査対象は「福岡市内に住む20歳以上で福岡市滞在5年未満（特別永住者、永住者、短期滞在を除く）」であり、昨年の調査結果は以下の通り。

- ・調査：福岡市総務企画局国際部
- ・調査期間：2016年2月
- ・対象：福岡市在住の外国人（20歳以上）
- ・提出数：548サンプル
- ・調査回答者：無作為抽出の2,000名
- ・性別：男性55.8%/女性44.2%
- ・年齢：29歳以下：54.0%の過半数
 - ・30～39歳：32.7%
 - ・40～49歳：6.9%
 - ・50～59歳：2.7%
 - ・60歳以上：1.8%

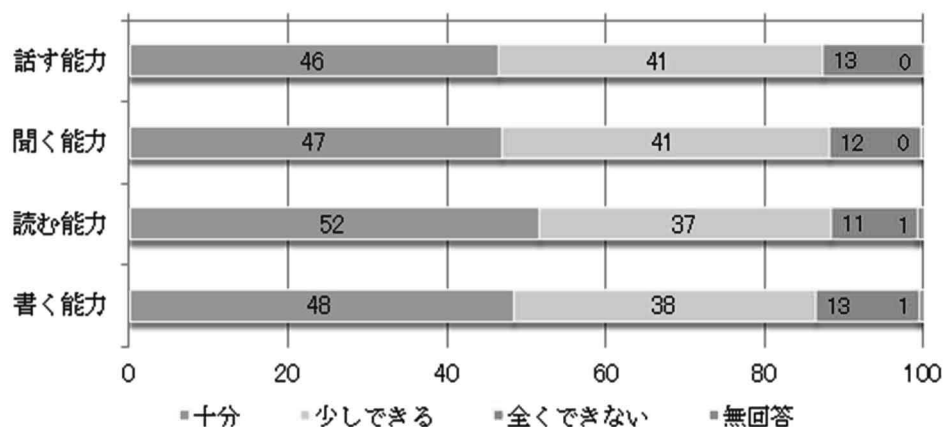
また、福岡に暮らす外国籍市民の過半数が29歳以下であることが明らかになった。英語能力に関するデータも、今後の施策展開の指標にすべき点である。

図6 回答者の属性



出典：福岡市外国籍市民アンケート調査

図7 福岡市外国籍市民の日常生活における英語力



出典：福岡市外国籍市民アンケート調査

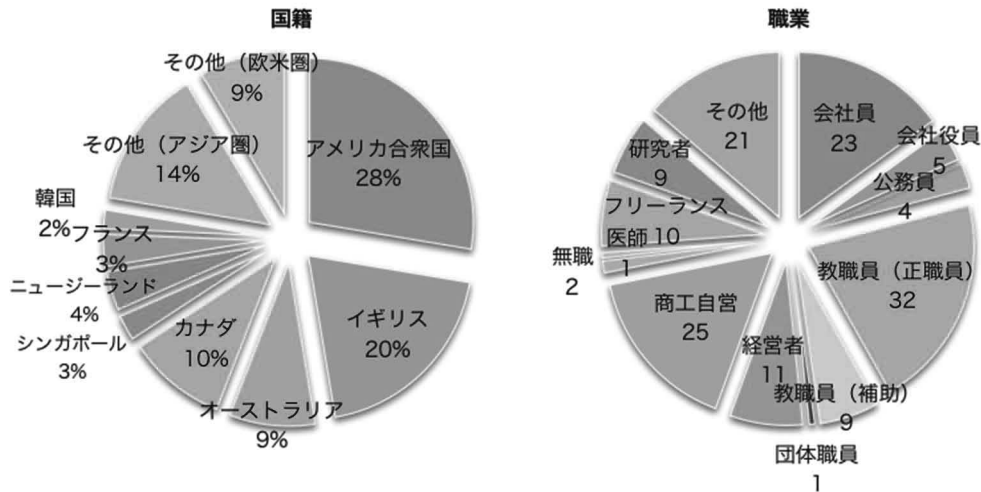
(5) Fukuoka Now による外国人の住まいに関するアンケート

Fukuoka Now は、福岡県在住の外国人 153 人を対象に、2015 年に住まいに関するアンケート調査を行った。それぞれがどれくらい福岡に住んでいるか、を調べた項目比較を行ったところ、興味深い数値がでてくる。

- ・調査：www.fukuoka-now.com
- ・調査期間：2015 年 6～7 月

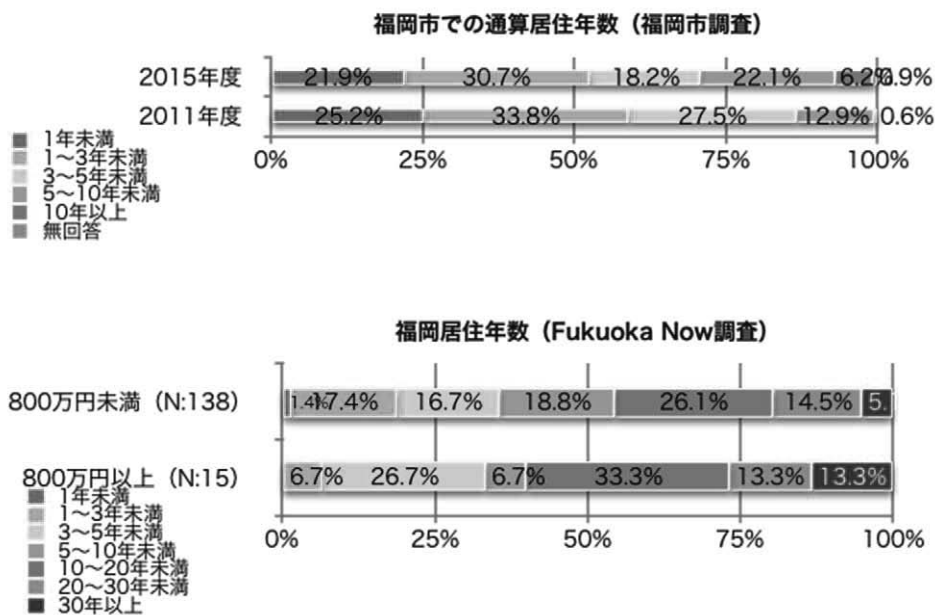
- ・対象：福岡県在住の外国人（学生除く）
- ・提出数：153 サンプル
- ・調査回答者：オンライン募集への協力者
- ・在留資格ではなく、実態に基づいた職業での調査を行った。

図8 回答者の属性



資料：Fukuoka Now「外国人の住まいに関するアンケート」

図9 両調査の居住年数構成の差異



資料：福岡市「外国籍市民アンケート調査」および Fukuoka Now「外国人の住まいに関するアンケート」

Fukuoka Now 調査によるアンケートでは年収も集計をとったので、参考までに年収別の数値をグラフ化している。なお、福岡市調査では10年以上は一括されているが、Fukuoka Now 調査では、20年以上の数値がブルー系で表されている。

さらに年収800万円以上と答えた15の回答者の滞在年数と職業、国籍の関係をみると、在留資格だけでは見えてこない実態がここにある。母国、居住地、ビジネス拠点など、活動拠点が複数存在する彼らにとって外国である福岡の地で、一定の経済活動を行うことができているこのような人材こそ、福岡市が望む多様で創造的な人々であるといえよう。

表5 年収800万円以上回答者の属性例（福岡居住年数×職業×国籍）

福岡滞在	職業	国籍
1～3年未満	教職員(正職員)	アメリカ合衆国
1～3年未満	経営者	イギリス
1～3年未満	会社員	ネパール
3～5年未満	キッチンスタッフ	イギリス
3～5年未満	エンジニア	アメリカ合衆国
3～5年未満	会社員	フランス
5～10年未満	商工自営	アメリカ合衆国
10～20年未満	商工自営	オーストラリア
10～20年未満	会社役員	オーストラリア
10～20年未満	教職員(正職員)	アメリカ合衆国
10～20年未満	会社役員	イギリス
10～20年未満	経営者	ネパール
20～30年未満	経営者	ニュージーランド
30年以上	経営者	アメリカ合衆国
30年以上	商工自営	アメリカ合衆国

資料：Fukuoka Now「外国人の住まいに関するアンケート」

日本国籍の福岡市民よりはるかに高い英語でのコミュニケーション力を備えている彼らにとっては、英語による情報提供が不可欠と考えられる。つまり、都市の経済成長の源となる創造力ある人間を惹きつけるための都市機能を備え、多様な選択肢をもつ彼らに選ばれる都市になる努力が求められる。

(6) 福岡市の外国籍市民への施策現状

グローバル都市・アジアのリーダー都市を実現するソフトインフラとして、言語や文化を超えた「アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくり」をコンセプトに、以下のようなサービスが提供されている。

表6 福岡市の外国籍市民への施策

窓口手続きサービス	<ul style="list-style-type: none"> 生活便利帳やゴミルールブック等の多言語パンフレット 福岡市国際会館、区役所
相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> 外国人へのルール・マナー紹介（ルールとマナーDVD活用）
生活ルール・マナー	<ul style="list-style-type: none"> 外国語対応可能な医療機関の電話相談及び情報提供(web)等 福岡インターナショナル・スクール支援
医療・教育	<ul style="list-style-type: none"> 外国人への日本語学習支援 語学ボランティア派遣
日本人とのコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 留学生から学ぶ外国語教室、あったか福岡 日本人への出前講座(グローバル意識醸成)
生活・余暇情報等	<ul style="list-style-type: none"> WEB充実、FM・情報誌・メルマガ等による情報発信

出典：福岡市総務企画局国際部「日本人にも外国人にも住みやすいまちづくり」（2017年2月）

外国籍市民が福岡市転入時に受け取る、通称ウエルカムキット。事実上、転入時にルールやマナーを記した書類の提供はあるが、日本人の転入時に提供されるものと同等レベルの情報が、外国籍市民にとって必要な情報提供であるとはいえない。移転後、福岡で快適に過ごすための情報提供、街の展望や市政、防災・危機管理情報の外国語での提供については、早急に対策を試みるべき時期にきていると推察される。

表7 「ウエルカムキット」の内容

<ul style="list-style-type: none"> 外国人のための生活便利帳（日・英・中・韓 併記） 日本語教室の案内（日・英 併記） 福岡よかトピア国際交流財団の案内（英・中・韓 言語別、日本語併記） ゴミルールブック（英・中・韓 言語別） ピジターズガイド（観光、買い物、食べ物、等）（英・中・韓 言語別） 歩きたばこ禁止チラシ（日・英・中・韓 併記） 福岡インターナショナルスクール案内チラシ（日・英・中・韓 併記） 外国人のための防災ハンドブック（英・中・韓・日・タガログ 言語別） 外国語ラジオ放送PR/緊急連絡先カード（日・英 併記） 自転車通行ルールチラシ（日・英・中・韓 併記） 日本語サポートセンターのチラシ（英・中・韓・日・タガログ 言語別） 福岡アジア医療サポートセンターのカード（日・英、中・韓 併記）
--

出典：福岡市総務企画局国際部「福岡市における在住外国人施策」（2017年2月）

表8 コミュニティサポートの内容

<p>・ 語学ボランティア通訳派遣 自治会、町内会などの主催する活動においてトラブル防止や安全確保に関する事業を行う場合。</p> <p>・ 共創による地域づくり推進協議会 自治会、企業、大学、NPO等と一緒に地域づくりを検討。</p> <p>・ NPOボランティアセンター「あすみん」</p> <p>・ 福岡よかトピア国際交流財団 生活情報の提供、各種相談（無料）、国際交流等に関する情報提供</p> <p>・ 地球市民どんたく 国際協力・交流にかかわるNGOなどが一堂に会して市民の国際協力・交流への関心・理解を促進することを目的に年に一度イベントを開催</p>
--

出典：福岡よかトピア国際交流財団ホームページ、福岡市ホームページ

5. 選ばれる都市機能

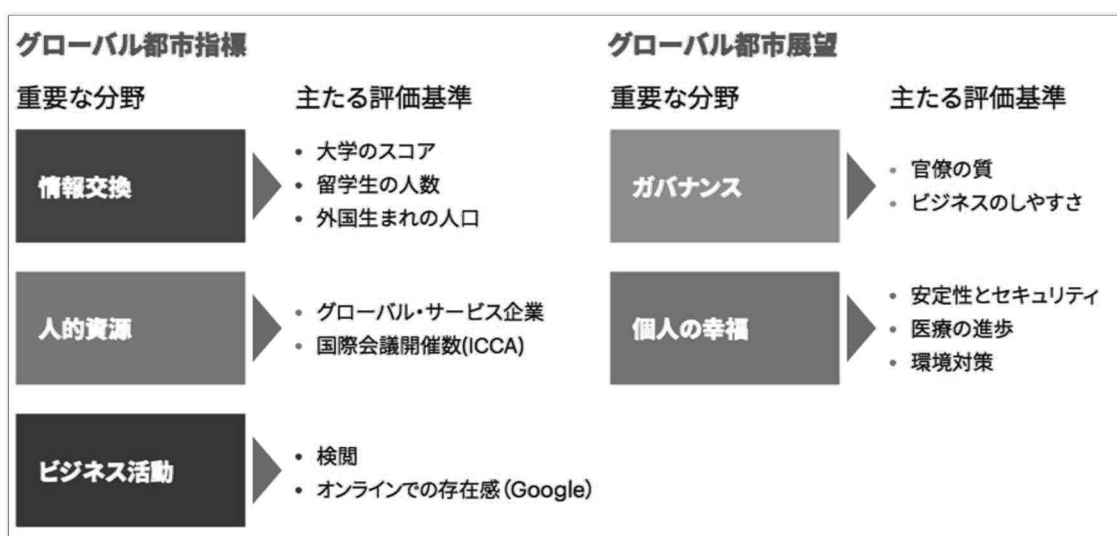
再び視点をグローバルに移すと、経済発展や都市繁栄をもたらすとされる創造的な人々を呼び寄せるべく、世界各都市において競争が生じていることを忘れてはならない。首都圏クラスの都市すら本気を出し、「選ばれる都市」であるための要素を着々と備えているのだ。自然環境や社会環境が良好であっても、手放して都市が繁栄することはないことを再認識する必要がある。

そこで、どのような分野が都市の力として評価対象にあるのかを先のグローバル都市調査の指標等を参考に、都市の生活を支える機能＝都市機能をまとめてみた。

- ・ 電気や水道の安定供給
- ・ 交通手段の提供
- ・ 医療・福祉・子育て支援
- ・ 教育
- ・ 商業、金融
- ・ 情報、文化、スポーツ

電気や水道、交通などのインフラの安定に加え、展望ある都市としてさらに魅力をつけるならば、人々が活躍できるステージや、才能を発揮できる場が用意されているかも、重要なポイントとなる。以下は、今日の世界をリードするスマートシティとは何か、を考察する際に出てきた主たる評価基準であり、何を重点的に伸ばしていくかを定めるための良き参考になるとと思われる。

図 10 今日のスマートシティに際立つ特徴



出典：一般財団法人森記念財団都市戦略研究所

つまり、今日の市民の生活の質を改善するために都市として取り組むべき要素は以下のとおり。

- ・ビジネス活動
- ・人的資源（教育レベル）
- ・情報交換（メディアやwebを介しての情報へのアクセス）
- ・文化的経験（主要スポーツイベント、美術館、等）
- ・ガバナンス（ビジネスのしやすさ）
- ・個人の幸福（安全性や医療サービス、環境対策）

9割以上の市民が、「住みやすい」「住み続けたい」と考える福岡市は、まさに都市としての高い機能と質を備えているといえる。今後、さらなる成長に向けてより高い目標として、グローバル都市を目指すのであれば、多様で創造的な人々を呼び寄せ、市民として迎え入れることを促進するような新たな取り組みも必要であろう。

6. 発信力の高い地域には人・モノ・コトが集まる

福岡市が様々な取り組みを行っているということ、世界に向けて発信することも重要である。多くの人は、行動する前に情報収集を行う。ましてはビジネスや住まいを移すとなれば、なおさらだ。インターネットで調査、メディアで見聞き、すでに経験ある人から情報を得るなど、情報へアクセスのしやすさは重要な鍵となる。

発信力、を考える際にすぐに思いつくのは「メディア」活用だ。「情報の媒介物」であるメディアには、新聞や雑誌、テレビなどのマスメディアや、webメディアが含まれ、学術分野においては都市空間や身体もメディアと定義される。ここに福岡にある主要メディア

をまとめてみた。

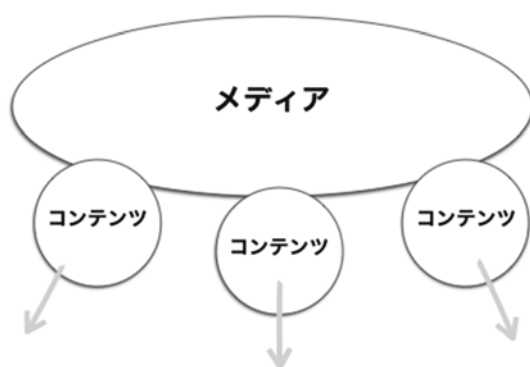
表9 福岡の主要メディア

名称	媒体	コミュニティ
西日本新聞	新聞, WEB	(掲示板機能)
KBC, TNC, RKB, FBS, TVQ, NHK	テレビ	(SNS)
FM福岡, CROSS FM, Love FM, NHK, COMIXTEN,	FMラジオ	-
Fukuoka Now	WEB, フリーペーパー	SNS, イベント
ふくおか経済	月刊誌	読者の交流イベント (年1)
ふくおか市政だより	誌面, WEB	-

資料：筆者作成

一般的には、検閲がなく、情報共有を重んじる社会では発信力が高まって然るべきであるが、日本においては、言語の壁が立ちほだかり、海外へ向けた情報発信力が欠如していることが大きな問題として国内外で認識されている。また、言語の壁に隠れて、見過ごされがちであるが、「(知識や情報を生み出し、発信する) 専門性の高い人材が不足」していることも忘れてはならない。

図11 これまでのメディアのイメージ



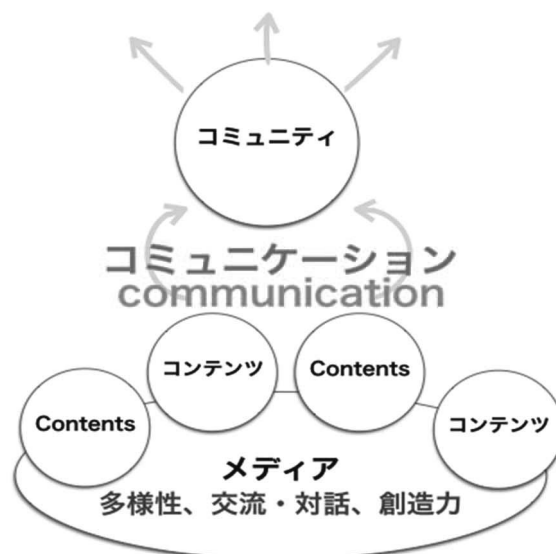
資料：筆者作成

社会で一般的となっているメディア像である。SNS 機能をはじめ、情報が届く先にあるコミュニティとの相互やりとりが可能であり、メディアがコミュニティを形成していることが特徴である。時間や場所にしばられることなく繋がることができる、まさにグローバル時代に適したスタイルである。

左図は、電波や紙を媒体にもつマスメディアを中心とした、今までのメディアのあり方をイメージしてみた。ニュースなどの情報を媒体に乗せれば、受け手に届いていた時代である。メディアと離れた場所、例えば、近所や職場で人が集まって情報交換できていた時代とも言える。

一方で下図は、現代のグローバル

図 12 グローバルメディアの今（イメージ）



資料：筆者作成

つまり、グローバル化には情報の共有を重んじる社会と、連帯意識の強いコミュニティ形成が必要不可欠であるといえる。なぜならば、現状が正しく情報として発信されるとともに、多様なニーズに応える情報が提供され、交換されることによって認知し、訪問し、投資し、居住する上での判断の基盤となるからである。

しかしながら、既存メディアでこの形態を備えるものは、福岡においては乏しいため、今後のメディアの可能性としても捉え、意識して育む必要があることを強調しておきたい。

7. コミュニティについて

発信力と共に、その情報発信の担い手となりうる人々が集う「コミュニティ」について考えてみたい。コミュニティは、実に様々な形で存在する。メディアと連動をしているもの、していないもの、コミュニティそのものが情報発信の媒体となり「メディア」の役割を果たすものなど、福岡にも多様なコミュニティが存在し、地域連携を実現させるネットワークの場としても、多くの人々が何かに参画しているはずである。また、地域の持続可能な発展を実現するには、その担い手である市民が参画するコミュニティにおいて、コミュニケーションを通じた意思形成が求められる。従って、情報発信に加えて、相互での情報や意見の交換が可能な場であることもコミュニティの要素であるため、『メディア+コミュニケーション≒コミュニティ』と捉えることが必要であろう。

さらなるグローバル化には、情報の共有を重んじる連携意識の強いネットワーク＝コミュニティを備えることが重要視されていることは、先にも述べたが、多様なライフスタイルをもつ人材が集うグローバル都市であれば、連携意識をもちやすい土地に紐づく地縁型

に加え、多様な人が集まることができるテーマ別の複合タイプのコミュニティが設けられることが望ましいように思う。強固な基盤と多様性の結合による相乗効果への期待である。

表 13 コミュニティの種類

地縁型コミュニティ	テーマ型コミュニティ
血縁	趣味や運動
地域	活動（NPO、ボランティアなど）
学校・職場	学習

資料：筆者作成

以下は、福岡でみられる地縁型とテーマ型の複合コミュニティである。テーマが人を惹きつけ、地縁で連帯感を強化する、そんなイメージで活動している。例えば、日本酒というテーマと、酒蔵が集まる城島地域という地縁の組み合わせは、イベントを通じての地域への誘客や産品流通といった経済効果にも寄与する可能性を秘めた、グローバル展開も可能な、さらなる発展が期待される複合コミュニティの例である。

表 13 福岡の地域×テーマ型コミュニティ

名称	コミュニケーション手段	主な参加者
福岡テンジン大学	web, SNS, イベント	地域に関心ある人
明星和楽	SNS, イベント	クリエイター、技術者
福岡スタートアップカフェ	窓口, イベント	スタートアップに関心ある人
CIP	英語：SNS, イベント	留学生、在住外国人
Fukucon	SNS, イベント（毎月）	福岡が好きな人
サンセットライブ	イベント（毎年）	音楽フェス
ふくおか経済	月刊誌、イベント（毎年）	経営者
クリエイティブセンター福岡	SNS, イベント（毎月）	クリエイター

資料：筆者作成

重要なポイントは、これらのコミュニティは自動的に派生するものでなく、放置して育つ類のものでもないということである。目まぐるしい変化が起こる世の中においては、継続すら難しいのである。そこで、このコミュニティにおける鍵として、『コミュニティマネージャー』と呼ばれる存在に着目したい。先に見たコミュニティには、いずれもその役

割を担う自ら率先してそのコミュニティを牽引するキーパーソンがいることが知られている。

○コミュニティマネージャーとは

地域や組織の中心を担い、社会に貢献することで自己実現を図っていく人。人々をケアし、その成長を支援する役割を担う「中核層」を指し、イノベーター、ファシリテーター、ケアワーカーなどが同義として存在する。

8. 提言と示唆

福岡のグローバル化を考える際には、目指すべき都市像と、現在提供されている都市サービスが、目標達成に向けて互いに相乗効果をもたらすよう検討されるべきであり、それは多数を占める日本国籍の市民の価値観によるところだけで決定されるべきではない。多様性と異文化交流のもたらす効果や魅力を大いに活用することがすでに望まれており、また、目標達成に向けたそれらの影響が小さくないからである。また、情報発信とコミュニケーションの関係性、そして、その先にあるコミュニティが重要な都市機能として認識され、その都市機能を活性化する存在である中核層の多様性を歓迎し、積極的に支援すべきである。

コミュニティマネージャーに代表される中核層への支援

- ・存在と価値の認知
- ・情報発信の場に配属
- ・海外人材の積極採用
- ・教育の機械提供による育成促進

都市の成長戦略と連動した福岡市民のライフスタイル向上を推奨し、グローバル社会において創造力ある人々を惹きつけるためにも、リーダーメッセージをはじめ、世界に向けた英語での定期的な情報発信を速やかに開始するタイミングにある。そして、何よりも肝心なのは、惹きつけた人々を離さないためにも、連帯感ある多様なコミュニティを運営管理する中核層をサポートし、ひいてはコミュニティをもメディアと捉えて、都市に備わるべき機能として整備したい。

<引用文献>

(1) リチャード・フロリダ：『クリエイティブ都市論』井口典夫訳，ダイヤモンド社，2009年刊 p.165

<参考文献>

- (1) 『Voice』株式会社PHP 研究所，2014年6月号「中核層の時代に向けて～自らの人生と社会を選びとる人々」<http://ironna.jp/article/221> (2017.03.10)
- (2) 福岡市ホームページ「平成28年度市政に関する意識調査 結果速報版」
http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/55050/1/01_ippan.pdf (2017.03.15)
- (3) 福岡市ホームページ「国内初「スタートアップビザ（外国人創業活動促進事業）」を始めます」
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/r-support/business/startupviza.html> (2017.02.20)
- (4) 福岡市ホームページ「国家戦略特区 福岡市グローバル創業・雇用創出特区」
<http://www.city.fukuoka.lg.jp/data/open/cnt/3/45791/1/270629-houkoku-siryou-keizai.pdf>
- (5) リチャード・フロリダ：『クリエイティブ資本論』ダイヤモンド社，2008年刊
- (4) リチャード・フロリダ：『クリエイティブ都市論』井口典夫訳，ダイヤモンド社，2009年刊

氏名：サーズ 恵美子

所属：有限会社フクオカ・ナウ

略歴：

建設・不動産会社に勤務し主に住宅の開発・販売に従事するかたわら、大学研究室にて情報通信技術や外国人研究者の招聘業務に携わる。2000年にITサービスを行う法人を創業（2011年M&A）し、クライアント企業の取締役としてIPOに携わり、2012年から2年間、福岡地域戦略推進協議会ディレクターとして海外向けマーケティングを担当。2007年より現職（Fukuoka Now ゼネラルマネージャー）。情報発信を通じて人や地域をつなぐミッションに携わる。

得意分野：マネジメント、編集、マーケティング

Email：contact@fukuoka-now.com

研究員活動の感想：

日々感じているモノゴトを、大系的にまとめる機会をいただいたことをありがたく思う。また、公式発表の場があることで、主観的な発表にとどまらず、次へとつなげるプロセスを考えるいい機会であった。URCの岡田允先生をはじめ、皆さんのサポートのおかげでこの場があることに、深く感謝している。

